

# 市民ホールにアイデア

憩いの広場 に関心、親子連れら600人 苦小牧市



市民会館周辺の模型や活用アイデアのパネルも用意し、市民ホール事業をPR

いい市民ホールを造ってほしい」と期待。市内矢代町の男性(39)は「サークル活動でよく市民会館や文化会館を利用する。いい活用アイデアが多く、今からでもできるものは実現していつてほしい」と話した。

来場者の意見は今後の基本計画の策定業務に役立てる。市は設計作業に18〜20年度の3年程度を充て、21年度の着工を目指している。

苦小牧市は3日、2017年度中に基本計画をまとめる新複合施設・市民ホール(仮称)をテーマに、「新しい市民ホールで何をしようーみんなで考える未来の憩いの広場」と題したイベントをイオンモール苦小牧で開いた。

老朽化した市民会館の建て替えに伴い、周辺の公共施設と統合して建設する市民ホール事業への市民の関心を高めようと企画。会場に市民会館周辺の模型を置き、公募の市民や有識者の検討委員会などで練り上げた基本構想、施設の活用アイデアなどをパネルで紹介した。

市職員をはじめ、北大大学院工学研究院の教員、学生の協力を得て、来場者から建設地の候補や活用アイデアに関する意見を聴いたほか、苦小牧東中学校敷地内に移転する苦小牧東小学校の跡地を建設地の基本としていることも発信した。

会場には親子連れや高齢者、会社員、学生など約600人が足を運び、市民ホール建設に関心を寄せていた。市内東開町の女性(67)は「中心街へ行く機会になるよう、